

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
分担研究報告書

てんかんの地域診療連携体制推進のためのてんかん診療拠点病院運用ガイドラインに関する研究

てんかん診療拠点機関病院受診者調査

研究分担者： 廣瀬 源二郎 医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 てんかんセンター
研究協力者： 中川 裕康 同病院 てんかんセンター 小児科
紺谷 智 同病院 てんかんセンター 脳神経内科
大西 寛明 同病院 てんかんセンター 脳神経外科
鳥越 恵一郎 同上

研究要旨： てんかん診療拠点機関病院受診者調査

当院てんかんセンターは脳神経内科所属てんかん専門医1名に2008年脳神経外科所属てんかん専門医が新たに加わり院内で設立標榜され、てんかん外科を含むてんかん診療を継続して、その業績から2018年10月に石川県てんかん診療拠点機関に選定された。日本全国で選定された16余の官公立病院と協力すると共に全国唯一の民間総合病院としててんかん患者受診状況およびその経過、診療報酬改定効果を検討する研究

A. 研究目的

当センターを受診するてんかん患者の状況を把握し、全国の他の拠点機関の患者受診内容等との比較検討をする。

B. 研究方法

当センターを受診する患者およびその家族に、強制ではなく自由に当センター作成問診表に記入していただく方式で、患者個人情報把握し、年齢、性、長時間ビデオ脳波モニター検査、手術の有無、その後の経過逆紹介の有無を調査。

（倫理面への配慮）

問診情報はスキャンして当院デジタルカルテに保存し、また患者・家族の許可なく全ての個人情報公開をしない事を口頭説明。

C. 研究結果

2020年度外来受診患者数1354人の内訳は成人1208人小児146人であり、前年比1.3倍増加した。男女比は723名vs631名であった。石川県在住患者が83%、富山県13%、福井県3%でその他1%。長時間ビデオ脳波モニタリング数は104名で前年とほぼ変わらず外科手術例も19名と前年比1名増加した。紹介した患者は176名、紹介された患者は367名、紹介患者内訳は県内患者74%、富山

県19%、福井県6%でその他1%であった。平成28年度/30年度診療報酬改定効果は迷走神経刺激装置植込術、装置交換術の点数大幅増加による増収がみられた。

D. 考察

てんかん受診患者数はコロナ禍とはいえ、1.3倍に増加したことから三次てんかん診療拠点機関として3年間難治性患者を中心として、長時間ビデオ脳波同時モニター、手術を行い適切なたんかん医療を行いえたことを確信している。

E. 結論

当センターは石川県てんかん診療拠点機関として適切なたんかん医療を安定して県民に与えており、さらにその医療恩恵は隣県富山・福井両県てんかん患者にも及んでいることが確認され、北陸地区のてんかん診療拠点機関と位置付けられよう。

F. 健康危険情報

G. 研究発表

1. 論文発表

『3. けいれん性疾患、てんかん』—1. 熱性けいれん、2. 憤怒けいれん(泣き入りひきつけ)、

3. ウエスト症候群、4. レンノックス・ガスト一症候群一、分担執筆。第 10 版、医学書院、東京、1520-1522 頁
廣瀬源二郎

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし